備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度	昭和４６年度～	根拠法令・例規等	消防法令
総合計画 大項目 基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先 担当課（室）	総務課
総合計画 中項目 基本施策	04 安全で安心して暮らせるまちづくり	職・氏名	消防防災係長　大岩伸喜
総合計画 小項目 施策	02 消防・防災	電話	６４－１８０９
事務事業名	01 消防施設管理事業	このシート作成に要した時間	1.0　時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	地域住民
目的（何のために）	消防活動を行うため、消火栓、防火水槽などを整備、維持管理及び車両、ポンプ等の備品を整備することにより、火災等の災害を軽減することを目的とする。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	消防水利の充足と消防機能の確保

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
消防施設管理事業	消火栓、防火水槽等消防施設の維持管理	◎
消防施設備品整備事業	消防車両、小型動力ポンプ等施設管理に必要な備品購入	○

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
事業費	直接事業費	千円	1,502	533	844
事業費	必要人員人件費	千円	0.09人 706	0.07人 540	0.02人 158
事業費	事業費計	千円	2,208	1,073	1,002
決算額 財源	国県支出金	千円			
決算額 財源	受益者負担	千円			
決算額 財源	繰入金	千円			
決算額 財源	市債	千円			
決算額 財源	その他（　）	千円			
決算額 財源	一般財源	千円	2,208	1,073	1,002
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標	説明			
結果指標量			0	0
対前年比	%	－		
活動コスト	円			
単位当たりコスト	円	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
初年度登録から２０年を経過する消防車両台数	目標値（A）	0	0	0	0
	実績値（B）	0	0	0	到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

成果指標設定の考え方・式や説明

消防車両の更新は、消防力の維持強化に不可欠であるため、老朽車の台数を減らすことを指標とする。なお、２０年に設定するのは、車両としては運行距離が少ないため、通常の車両より劣化が少ないと思われるため。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高いや／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**B**

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高いや／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ■ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高いや／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：消火栓の設置については、平成21年度から水道法により水道課が担当している。
平成25年度は積載車4台、可搬ポンプ付軽積載車2台を購入予定。

総合評価

消火栓、防火水槽などの消防施設は、火災からの被害を減災する施設であることから、その整備及び維持管理は重要な業務である。また、消防車両、可搬ポンプなどの消防資機材の更新や配備は、今後も必要に応じて整備していく必要がある。

総合評価（A 高いや／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：**C**

Action

平成26年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：消火栓、防火水槽は維持管理を重点的に行う。
消防車両、可搬ポンプ購入については、21年度で車両９台を更新したため、購入から20年以上経過するような車両はなくなったことから、現状を維持するが、１５年を経過する車両が２３台あるため、年次的に更新する必要がある。